

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(4年計画の4年目)

1. 研究課題

芸術と社会—近代における創造活動の諸相—

Art and Society: Aspects of Creative Activities in the Modern Times

2. 研究代表者氏名

高階 絵里加

TAKASHINA, Erika

3. 研究期間

2020年4月-2024年3月(4年度目)

4. 研究目的

芸術を歴史・文化・社会との関連からより多角的に考察する研究は近年活発化しており、たとえば美術の分野においては、作家・作品研究を基本として、さまざまな芸術運動、都市文化や生活文化との関わり、美術市場の変化、パトロンの変遷、文化支援、ジャーナリズムと批評の発達、広告と美術、展示空間の多様化、博物館・美術館活動のひろがり、美術受容者の研究等、多様な方法が試みられている。本研究会もその一翼を担うものとして、美術を中心に、歴史、文学、映像、デザイン等の分野の研究者にも加わっていただき、広い意味での近代における芸術作品・芸術家と社会の多様な結びつきの一端を明らかにすることをめざす。基本的には、具体的な作品や資料、あるいは作家や出来事を素材として、社会の中の芸術の諸相を考えたい。場合により研究会の場を美術館や博物館に移し、展示や展覧の場をフィールドとする研究会も行いたいと考えている。

In recent years, there has been a growing amount of research to examine art from a more multifaceted perspective by looking into its connection with history, culture, and the society. For example, while conducting research on artists and artworks is fundamental to the field of art, a variety of other approaches to the subject are also being examined, such as, various art movements, urban and lifestyle culture, the shifts in the art market, changing patrons, cultural support, development of journalism and critiques, advertisement and art, diversification of exhibition spaces, widening activities at museums and art galleries, as well as research on recipients of art. This joint research project will contribute towards this effort by inviting researchers from other fields catering to art, such as that of history, literature, film, and design to participate in workshops which attempt to clarify, in a broad sense, the various segments of connections that artworks and artists have with our society in the modern age. Essentially,

we would like to explore the various aspects of art in the society by examining specific works and materials, or perhaps the artists and events. Depending on the situation, these meetings will be conducted at an art gallery or museum and make the area where displays and exhibits are held as the place of study.

5. 本年度の研究実施状況

4年計画の第4年目となった本年は、計8回の研究会を開催した。内容は以下の通りである。「日本画グループ「景聴園」の活動」「日中戦争・国共内戦期の中国モダニズム絵画からみる「個人」と「国家」」「1930-40年代日本におけるフランス文化の発信とその受容」「スペイン・インフルエンザと美術：忘却の淵から甦ったパンデミック」「竹内栖鳳の前衛性」「東本願寺旧蔵の品々：二度の売り立てを中心に」「明治期正本写出版の復興と衰退」「本願寺西山別院本堂障壁画について」。近現代の日本、東アジア、ヨーロッパにおける芸術活動と社会状況の相互影響、国際的交流、コレクションの生成、メディアと芸術受容の様相等についての報告が行われた。

6. 本年度の研究実施内容

2023-04-15 日本画グループ「景聴園」の活動 発表者 古田理子 高島屋史料館
2023-05-13 日中戦争・国共内戦期の中国モダニズム絵画からみる「個人」と「国家」 発表者 呉孟晋
2023-06-10 1930-40年代日本におけるフランス文化の発信とその受容 発表者 藤野志織
2023-07-29 スペイン・インフルエンザと美術：忘却の淵から甦ったパンデミック 発表者 河本真理 日本女子大学
2023-10-28 竹内栖鳳の前衛性 発表者 森光彦 京都市京セラ美術館
2023-11-12 東本願寺旧蔵の品々：二度の売り立てを中心に 発表者 國賀由美子 大谷大学
2023-12-23 明治期正本写出版の復興と衰退 発表者 金智慧
2024-03-09 本願寺西山別院本堂障壁画について 発表者 大原由佳子 文化庁

7. 共同研究会に関連した公表実績

なし

8. 研究班員

所内

高階絵里加、岡田暁生、小関隆、高木博志、立木康介、福家崇洋、藤原辰史、森本淳生、藤野志織、呉孟晋、金智慧

学外

小川佐和子(北海道大学大学院文学研究院)、久保豊(富山大学)、多田羅多起子(広島大学大)

学院人間社会科学研究科／教育学部 造形芸術系コース)、イリナ・ホルカ(東京外国語大学)、三宅拓也(京都工芸繊維大学デザイン・建築学系)、宮下規久朗(神戸大学大学院人文学研究科)、池田さなえ(京都府立大学)、永井隆則(京都市立芸術大学)、花田史彦(大手前大学建築&芸術学部)、植田憲司(京都経済短期大学)、大久保恭子(京都橘大学発達教育学部)、國賀由美子(大谷大学文学部)、竹内幸絵(同志社大学)、河本真理(日本女子大学)、久保昭博(関西学院大学)、有賀茜(京都府京都文化博物館)、植田彩芳子(京都府京都文化博物館)、大原由佳子(文化庁文化財第一課)、清水智世(京都府京都文化博物館)、中野慎之(文化庁文化財第一課 文部科学)、藤本真名美(和歌山県立近代美術館)、森光彦(京都市京セラ美術館)、山口真有香(滋賀県立美術館)、山田真規子(目黒区美術館)、林洋子(兵庫県立美術館)、郷司泰仁(香雪美術館)、小嶋ひろみ(公益財団法人 両備文化振興財団 夢二郷土美術館)、実方葉子(泉屋博古館)、柴田就平(笠岡市竹喬美術館)、鈴木千栄子(毎日放送)、孝岡睦子(大原美術館)、高階秀爾(大原美術館)、竹嶋康平(泉屋博古館)、古田理子(高島屋史料館)、松原史(北野天満宮北野文化研究所)、VOLK, Alicia (アリサ・ヴォルク) (University of Maryland (メリーランド大学))、藤井俊之

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	延べ人数										
	機関数 (必須)	受入人数					総計	延べ人数			
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生		海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	4	0	2	2	0	25	0	10	10	0
京大内 (人文研を除く) (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国立大学 (内女性)	4	4	0	1	0	0	10	0	1	0	0
公立大学 (内女性)	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0
私立大学 (内女性)	5	5	0	1	1	0	16	0	4	4	0
大学共同利用機関法人 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	6	7	0	4	2	0	14	0	7	2	0
民間機関 (内女性)	4	4	0	1	1	0	11	0	1	1	0
外国機関 (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他 ※ (内女性)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	21	25	0	9	6	0	80	0	23	17	0

※「その他」の区分受入がある場合
 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員
 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	2		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	京都メディア史研究年報	1	R5.4	新京都学派のメディア論：桑原武夫を中心に	花田史彦
2	開館 20 周年記念展 ジョルジュ・ルオー ―かたち、色、ハーモニー―	1	R5.4	ジョルジュ・ルオー―戦争と「聖なる芸術」―	大久保恭子
3	日仏美術学会会報	1	R5.8	パリ万国博覧会（1937年）における日本の展示について	高階絵里加
4	日本文学	1	R5.9	共産主義政権下のルーマニアにおける日本詩歌の翻訳アンソロジー 時空間を超えた共同制作の創造性と破壊性	ホルカ イリナ

5	社会科学	1	R5.9	国家メディア戦略「文化映画」への広告の接近：第二次世界大戦期の原弘と板垣鷹穂の言説と制作に注目して	竹内幸絵
6	竹内栖鳳 破壊と創生のエネルギー	1	R5.10	栖鳳と日本画界	森光彦
7	シュルレアリスムと日本	1	R5.12	中国の「超現実主義」と外山卯三郎 倪貽徳によるシュルレアリスム絵画理論の翻訳をめぐって	呉孟晋
8	シュルレアリスムと日本	1	R5.12	矛盾の絵画―土地の記憶と接続する	清水智世
9	接続する柳田國男	1	R5.12	メディア社会の民俗学を求めて―柳田國男と佐藤忠男	花田史彦
10	國華	1	R5.12	明治期京都の日本画教育―岡倉天心からの影響と展開	植田彩芳子
11	國華	1	R5.12	塩川文麟筆 嵐山春景	多田羅多起子
12	國華	1	R5.12	鈴木松年筆 神武天皇・素戔鳴尊図屏風	郷司泰仁
13	日本研究	1	R5.12	가부키의 ‘이에노게이’ : 전통의 보존과 혁신의 장으로서의 역할에 주목하여 (歌舞伎의 「家の芸」: 伝統の保存と革新の場としての役割に注目して)	김지혜 (金智慧)
14	京都府立大学学術報告 人文	1	R5.12	明治期日本の大農場における経営・技術思想―品川弥二郎所有・北海道農牧場の人的関係分析から	池田さなえ

15	モダン・タイムス・イン・パリ 1925—機械時代のアートとデザイン	1	R6.1	機械時代(マシン・エイジ)のフランスと日本—ポスト機械時代から考える	河本真理
16	湖国と文化	1	R6.1	《石山寺縁起絵巻》の成立とその背景	國賀由美子
17	学校教育実践学研究	1	R6.3	地域連携活動と中学校美術科の連動—地域の美術文化の創造的継承に向けて—	多田羅多起子

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書
なし

12. 博士学位を取得した学生の数
なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

14. 研究成果公表計画および今後の展開等
研究成果は、研究会で発表された内容を中心とする論文集として出版の予定である。